

# 大阪医科大・労働契約法 20 条裁判

## 最高裁不当判決への怒りを力に

### 非正規労働者への差別撤回、要求実現の闘いすすめよう

2020 年 10 月 13 日、最高裁第三小法廷(宮崎裕子裁判長)は、大阪医科大学・労契法 20 条裁判で有期アルバイトに対する賞与と私傷病休職中の賃金補償が無いことは「不合理とは言えない」とする差別容認の不当判決を出しました。

昨年 2 月 15 日の大蔵高裁判決では、賞与・私傷病休職中の賃金補償・夏季特別休暇を全く与えないのは不合理だとして大学側に約 109 万円の損害賠償を命じる判決を出しました。最高裁は、夏期休暇(正規と同様 5 日付与)を除き、高裁判決を不当にも取り消しました。正規雇用と非正規雇用の格差是正にむけた旧労働契約法 20 条や 19 年 4 月施行の「パートタイム・有期雇用労働法」の趣旨や同一労働同一賃金ガイドラインに反するものであり、コロナ禍でいっそう雇用・生活不安に直面している非正規労働者の実態を見ない司法判断は断じて許せません。

この裁判は、大学の教室(研究室)でアルバイト秘書(1 年ごとの有期契約)として働いてきた原告が、正職員秘書とまったく同じ時間・仕事内容・責任で働いているのに年収や待遇に大きな差があるのは労働契約法 20 条に違反するとして裁判に立ち上がったものです。

2015 年 8 月大阪地裁に提訴するとともに全国一般大阪府本部に加入した原告は、法廷闘争だけでなく、各組合への支援要請や全国の集会などに積極的に参加し非正規労働者のおかれている状況や労契法 20 条裁判の意義について訴え、大学・裁判所あて署名の協力を広げるなど、運動と支援の輪を広げました。

JR 高槻駅での定例宣伝は、市民に争議内容を伝えると共に、非正規労働者の要求実現めざし権利や法律を知らせてきました。30 回を重ねる中で、次第にビラの受け取りがよくなり激励の声を掛けてくれたり、労働相談が寄せられるなど、私たちの運動が地域に根付くものとなりました。

2018 年 1 月大阪地裁で全面敗訴の判決に屈することなく高裁での闘いを決意し、自身だけの問題ではなく全国 2100 万人もの非正規労働者全体の闘いと位置づけ奮闘する姿は府本部はじめ多くの仲間を勇気づけ、いっそう運動が強化され、大阪高裁での画期的判決を勝ちとる力になったと言えます。

社会的にも、増大する非正規労働者の待遇改善、差別撤回の世論と運動が広がるもので 2018 年には不合理な待遇差を禁止する「パートタイム・有期雇用労働法」が作られ、均等待遇実現にむけた流れが強まりました。その上で、有期アルバイトに賞与支給を認めた大阪高裁判決は厚生労働省が作成した啓発ポスターにも「差別はダメ」の例として「賞与無し」が描かれるなど社会的に大きな影響を与えるとともに非正規労働者の励みとなる画期的な判決でした。

しかし今回の最高裁判決は、高裁判決や法改正で差別是正への希望を見いだした非正規労働者の期待を裏切るものです。医科大と同日に出されたメトロコマース(東京メトロの子会社)争議では契約社員の退職金について、正職員支給率の4分の1を認めた東京高裁判決を破棄しゼロで良いとする不当判決でした。賞与、退職金が認められなかった最高裁判決に対し、疑問や否定的世論が起こっています。一方、10月15日の郵政ユニオン3裁判については、扶養手当(家族手当)や年末年始手当、有給の病気休暇などを認める労働者勝利の判断が下されました。しかし郵政でも賞与の支給格差は是正されておらず、本給や退職金など大きな格差は残っています。

非正規労働者に対する差別撤廃、真の均等待遇実現には、諸手当や休暇制度だけでなく、賞与や退職金そして賃金(基本給)そのものの格差を無くすことが重要です。医科大争議では、手当や賞与がないことで正職員秘書との年収格差が3倍、新入職員とは約2倍の格差があると訴えました。しかし一連の最高裁判決では、基本賃金、賞与、退職金といった格差が最も大きな待遇については、使用者側の恣意的な言い訳を全面的に認め、高裁での前進的な判断を破棄しました。

今回、「パートタイム・有期雇用労働法」における不合理格差の判断基準の曖昧さも明らかになりました。真の均等待遇実現へ法改正への運動も重要です。「安上がりで使い勝手の良い非正規労働者」や労働法適用外の「雇用によらない働き方」を求める財界の要望に応え労働法制改悪をすすめる政府の横暴を断固阻止し、誰もが安心して働き続けられる法整備を求めるとともに、職場では最高裁判決を悪用した一時金・退職金改悪や正規労働者の手当廃止など労働条件改悪を許さない闘い、非正規労働者の組織化と要求実現めざす運動をすすめるため、今回の不当判決への怒りを要求実現への「力」に変えてさらに奮闘しましょう。

2020年10月22日

全国一般労働組合大阪府本部  
医科大争議最高裁判決報告集会